

ひろしまの遺跡

第113号

大規模火災は幕末の長州戦争が原因か？!

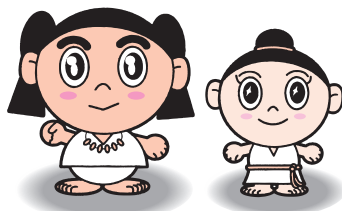
亀居城関連遺跡 (大竹市小方)



亀居城関連遺跡全景 (空中写真)

左の山(亀居城)と中央の道路(西国街道)に挟まれた細長い場所が調査範囲

亀居城関連遺跡では、近世の町並みが大規模な火災に遭ったことが確認され、火災後のゴミを捨てたと推定される土坑(穴)から年号が刻まれた硯が出土しました。これにより、火災の原因は1866(慶応2)年の第2次長州戦争であった可能性が高くなりました。



ひろちゃん

やよいちゃん



硯の裏面

上に「硯」,下に「丙午(横)弘化三年四月吉日(縦2行)」,中央は印刻に失敗したと思われる。

発掘調査速報

亀居城関連遺跡（大竹市小方）

調査期間 平成26年7月14日～平成27年2月2日

亀居城関連遺跡は、亀居城に関連する遺跡で、今回の発掘調査範囲は、亀居城と西国街道に挟まれた南北に細長い平坦地です。江戸時代（近世）の遺跡周辺は、西国街道の宿場・玖波宿が置かれるなど、交通の要衝でした。

発掘調査の結果、整地や盛土を繰り返し、18世紀から現在まで町屋が営まれていたことがわかりました。確認した遺構は、石列、土坑、井戸跡など、出土した遺物は、陶磁器、金属製品（古銭、かんざし、釘）、石製品（石臼、砥石、硯）などです。また、西国街道沿いを中心に広い範囲で地面が焼けており、大規模な火災があったことがわかりました。さらに火災の後のゴミを捨てたと推定される土坑（穴）から、水滴（硯用の水差し）とともに「丙午弘化三年四月吉日」と刻まれた硯が出土しました。「丙午」は干支の「ひのえうま」，「弘化三年」は1846年です。硯を入手した日を刻んだと推定されることから、1846年以降に火災があったものと推定されます。また硯の使用状況からすると、火災は入手した日からかなり年数が経っているようです。

ところで、発掘調査を行った場所は、江戸時代の小方村片側町にあたり、記録（『大竹市史』）によれば小方村には大きな火災が2回あったとされています。ひとつは、1754年に片側町で6軒の家が焼けた火災、もう一つは第2次長州戦争の際に、小方村で286軒の家が焼けた火災です。なお、焼失した286軒の内訳は、市場232軒、立戸組54軒です。市場の具体的な場所は不明ですが、片側町を含む亀居城東の町屋範囲と思われます。第2次長州戦争があったのは1866年、硯の入手から20年後のことです。これらのことを考え合わせると、発掘調査により確認した大規模な火災の痕跡は、第2次長州戦争が原因であった可能性が

高いものと考えられます。

また、発掘調査により火災は2回以上あったことがわかりました。今後は、発掘調査で明らかになった遺構・遺物を整理し、その火災の時期や規模とともに、当時の暮らしについて明らかにしていきたいと思います。

（渡邊昭人）



火災の痕跡

地面が赤く焼け、炭化物が広がっています。



年号が刻まれた硯と水滴

火災のゴミを捨てたと思われる同じ土坑（穴）から出土しました。硯は丘（墨を磨る部分）がかなり凹んでいます。



井戸跡から出土した碗

18世紀後半の磁器・碗です。調査では18世紀の陶磁器が最も多く出土しました。

—考古学からみた 「しまのわ」大研究—

今年度は、愛媛県の研究者を招聘し、瀬戸内海を挟んで対峙する広島県と愛媛県の歴史や文化を比較しました。内容は、第1回(10月19日)が「高地性集落と倭国大乱」山田繁樹さん(埋蔵文化財調査室)、第2回(11月2日)が「弥生～古墳時代の土器からみた交流」梅木謙一さん(松山市埋蔵文化財センター)、第3回(11月23日)が「瀬戸内からみた邪馬台国のありか」伊藤実さん(埋蔵文化財調査室)、第4回(11月30日)が「いわゆる山陰系コシキ形土器からみた地域間交流」谷若倫郎さん(愛媛県教育委員会)、第5回(12月7日)が「考古学からみた中世瀬戸内の流通」柴田圭子さん(愛媛県埋蔵文化財センター)、第6回(12月23日)が「発掘調査からみた中世の海城(葛城跡)」尾崎光伸さん(当調査室)でした。

「広島と愛媛の交流について興味深く思った」「歴史の物証は考古学であると思う」「器だけからでもいろいろ分かることがあるのに感心した」などの感想がありました。3年連続で受講された方もおられるなど、受講者は昨年度より多く、あわせて434名、特に第6回は94名の受講者がありました。



第4回講座風景



第5回講座風景



第3回遺跡探訪
(亀居城跡)



第4回遺跡探訪
(梅木平古墳)

知られざる遺跡探訪 広島発 ローカル(乗合)列車・ バスで行く遺跡探訪ツアー

遺跡探訪の後半を行いました。

第3回は11月15日(土)「近世西国街道・玖波宿探訪と発掘現場見学」として、JR玖波駅に集合し、近世西国街道の玖波宿の町並み散策した後、福島正則が築いた亀居城跡を見学。その後、当調査室が発掘調査を行っていた亀居城関連遺跡を見学しました。参加者はスタッフを含めて15名でした。

第4回は2月14日(土)三原市教育委員会との共催で「本郷町の梅木平古墳・御年代古墳と竜山石の石棺を訪ねて」として、JR山陽本線に乗り本郷駅で下車し、本郷生涯学習センターの展示室で本郷町の出土品を見た後、横見廃寺跡・梅木平古墳、御年代古墳、貞丸第1・2号古墳、そして南方神社にある家形石棺を見学しました。往復10km余りの距離でしたが、参加者一同元気に散策しました。参加者はスタッフを含めて29名でした。

「個人では行けない所に行けてよかった」「説明があって大変よくわかり、興味が広がった」など、参加者の感想は概ね好評でした。

平和大通り 青空ギャラリー2015

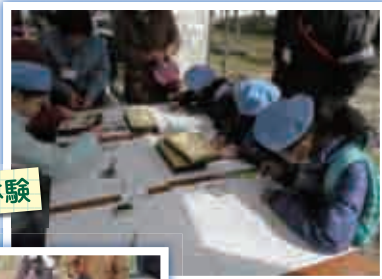
平成27年1月18日（日）広島市西区役所前の平和大通り緑地帯で開催された“平和大通り青空ギャラリー2015”に（公財）広島市文化財団文化財課と共同で参加しました。この事業は西区役所と西区の公民館が西区の魅力発信とコミュニティ活性化を目的に開催されるものです。当調査室では、市民のみな様に体験等をとおして埋蔵文化財を理解していただくことを目的に昨年度から参加しています。

当調査室は、埋蔵文化財の仕事紹介の写真パネルの展示や‘古銭の拓本’とそれを使った‘しおり作り’を行い、一方、広島市文化財団は‘縄文ハンター ミニ弓矢に挑戦’や‘火起こし’を行い、ほんの少しですが仕事や古代について触れていただきました。

今年度は、全国都道府県対抗男子駅伝競走大会協賛応援イベントとして開催され、多くの市民が訪れられ、約120人の方が体験されました。



拓本体験



拓本体験



火起こし体験

平成26年度 ひろしまの 遺跡を語る

今年度は、当調査室が発掘調査を行っている御領遺跡（福山市）から出土した絵画土器‘船が描かれた土器’をもとに「弥生時代の船—大航海時代のさきがけ—」をテーマに、平成27年1月24日（土）に広島県立美術館の講堂で開催しました。

当調査室の尾崎光伸さんが「弥生時代の船の絵が見つかった御領遺跡（第7次）の発掘調査」、伊藤実さんが「御領遺跡の土器に描かれた弥生時代の船を考える」の報告を行った後、前奈良文化財研究所副所長の深澤芳樹さんに「描かれた日本古代の船」と題して講演していただきました。その後、深澤さんを中心に3名による考古学から見た古代船について座談会を行いました。

この土器については、新聞やTV等で報道されて話題になったこともあり、243人の参加者がありました。

（この土器について6ページに詳しく掲載。）



座談会風景



深澤芳樹さんの講演



会場風景

「尾道松江線発掘物語」展 始まる!

中国横断自動車道尾道松江線（愛称：中国やまなみ街道）が平成27年3月22日（日）に全線開通しました。この建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、島根県部分を島根県教育庁埋蔵文化財調査センター、広島県部分を当教育事業団埋蔵文化財調査室が平成8年度から平成24年度にかけて、あわせて131か所、総面積約30万㎡を行いました。この調査が瀬戸内海と日本海を結んで南北に長い範囲（総延長137km）であったこともあり、遺構や遺物から地域間の交流や文化の違いが明らかになるなど、多くの成果を得ました。具体例としては、最古級の約3万年前の石器が見つかった只野原3号遺跡（広島県）、ヤマト政権や朝鮮半島とのつながりを示す宮の本第24号古墳（広島県）、上野第1号古墳（島根県）、50棟もの建物跡が見つかった古墳時代の大型集落の和知白鳥遺跡（広島県）、全国屈指の鉄作りや玉作りの工房跡等が見つかった堂々ノ内遺跡・堂床遺跡（島根県）などがあります。

この度、全線開通を記念して、その成果を公開する展示会を島根県立古代出雲歴史博物館、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター、広島県立歴史民俗資料館、尾道市教育委員会と当教育事業団の5機関が連携し、広島・島根交流事業として、出雲・三次・尾道の3会場で開催することになりました。展示会では、尾道松江線の発掘調査により出土した資料を中心に、中国山地を介して行われてきた交流の歴史をわかりやすく紹介します。出雲会場の展示は終了しましたが、今後、三次会場〔平成27年4月17日（金）～6月14日（日）広島県立歴史民俗資料館〕、尾道会場〔平成27年7月18日（土）～9月6日（日）おのみち歴史博物館〕で開催されます。



出雲会場開会式後の展示見学風景



曾川1号遺跡（尾道市）
出土土器



曲第2号古墳（庄原市）
出土短甲

発見!!

ビッグニュース

弥生土器に国内最古！屋形付船の絵！！

(福山市御領遺跡第7次調査の弥生土器)

平成20（2008）年から国道工事に伴って継続して発掘調査している福山市神辺町の御領遺跡第7次調査（平成25年度）の出土品から、国内最古の屋形が描かれた弥生時代の船の絵が、平成26年8月に発見されました。

絵は、弥生時代後期後半（2～3世紀）の壺の口にヘラで線刻されています。船首と船尾がゴンドラ形にそり上がり、波よけ板（縦板）や屋形（船倉）、旗などが明瞭に表現され、かなり大型の交易船とみられます。

弥生時代の船の部材や絵画のなかで全体の構造がわかる例は少なく、屋形（船倉）が付いた大型船は国内で初（最古）の発見です。

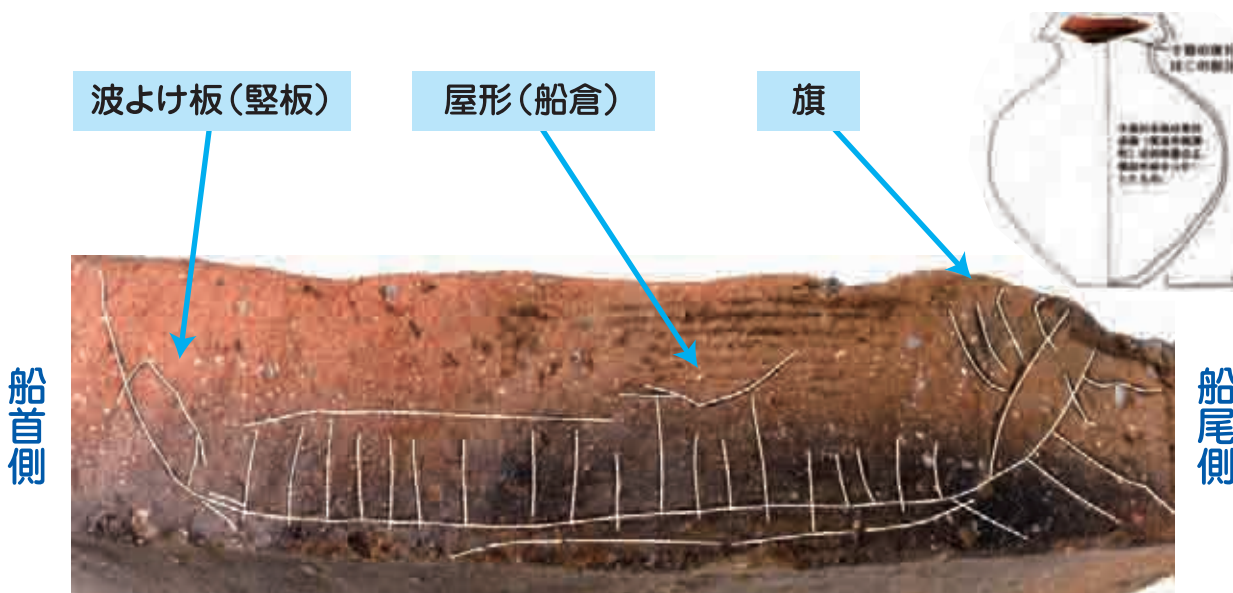
土器が御領遺跡で作られたものか、遠方から持込まれたものかは、これからの研究ですが、当時の御領遺跡の近くにこうした大型船が着く港があったことや、瀬戸内海に絵のような大型船が行き来していたことは確実のようです。邪馬台国時代の瀬戸内海のようなすを明らかにする好資料といえます。（伊藤実）



土器が出土した御領遺跡第7次調査全景



土器が出土した土坑（SK37）の土器溜



弥生土器の船の絵（中央）と描かれていた土器の破片の部分（右上）

考古学 アラカルト 44

筒形石製品 ～特殊な威信財～

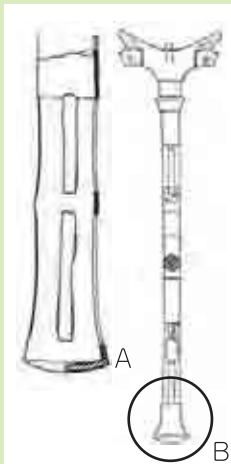
いよいよ全線開通となった中国横断自動車道尾道松江線。建設に伴い、多くの遺跡や古墳を調査する中で、見たこともない遺物がいくつか出土しました。今回紹介する筒形石製品もその1つです。

出土したのは、三次市吉舎町に所在した下矢井南第4号古墳。直径約19mの円墳で、粘土槨などの埋葬施設が5基あり、副葬された刀剣・斧・鎌・刀子・豎櫛から5世紀初頭前後の築造と考えられます。筒形石製品は盗掘によって掻き出されていましたが、中心的な埋葬施設の副葬品と推測されます。末広の形状で、高さは6cm。何かを挿し込むような直径1.4cm、深さ2.5cmの孔があります。石材は緑色凝灰岩で、緑白の光沢ある外見は神々しさを感じさせます。



▲出土した筒形石製品

筒形石製品の性格については、「ヤリやホコの石突（下端）」「杖状のものの下端」「筒形銅器の石製品化」など諸説がありますが、その祖形は玉杖の石突といわれています。玉杖とは首長が持ったとされる威信具で、奈良県の桜井茶白山古墳に副葬されたものが有名です。これはT字状の杖頭と複数の大型管玉に鉄芯を通したもので、その石突はまさに筒形石製品とそっくりです。



A.三玉大塚古墳の筒形銅器

B.桜井茶白山古墳の玉杖(○が石突)

やがて時期が下るにつれ、玉杖部品との組み合わせが不明瞭な石突や石突しか出土しない事例が増えます。これらが「筒形石製品」と呼ばれ、玉杖の石突が構成部材から離れて、それ自体が威信財として副葬されるようになったものと考えられています。

筒形石製品は、広島県から岩手県に至る広い範囲で見つっていますが、出土した古墳は全国で20例ほど。奈良県の新沢千塚500号古墳・新山古墳、大阪府の和泉黄金塚古墳、三重県の石山古墳、埼玉県の熊野神社古墳など、多種多量の副葬品を有する前方後円墳や大型の円墳が多く、広域な地域を治めた首長の墓とみられています。なぜ、このような威信財が備後北部の直径20m未満の円墳で出土したのでしょうか。

吉舎町は大型古墳が帆立貝式古墳となる三次市の特性が強くみられ、古墳時代中期以降、馬洗川流域を中心として爆発的に古墳が造られます。その代表である三玉大塚古墳は全長41mの帆立貝式古墳で、短甲をはじめ多量の武器や武具が出土しています。この背景にはヤマト王権による軍事力増強策があったという説があります。下矢井南第4号古墳は古墳が急増する前段階のものですが、時期が近い馬洗川下流の宮の本第24号古墳（直径30mの円墳）で、ヤマト王権との強い関係を示す円筒埴輪列がみついています。三玉大塚古墳の被葬者に地方で数少ない威信財である筒形銅器が副葬されている事実も、ヤマト王権との連綿とした関係を感じさせます。三玉大塚古墳に先行する時期の吉舎町で、ヤマト王権との関係を築いた人物が下矢井南第4号古墳の被葬者であったことを示すものが筒形石製品なのかもしれません。（山澤直樹）



▲下矢井南第3～5号古墳（頂部の大きい古墳が第4号古墳）

お知らせ

平成26年度の発掘調査報告書を刊行しました。

ご希望の方は調査室へお問い合わせください。

回	書名	市町名	概要	頒価
1	海田原第24～27号古墳	三次市	古墳時代中期後半～後期初頭に築造された古墳群で、須恵器・土師器・鉄鏃・鉄剣・玉類などが出土。	600円
2	殿平古墳 長畑山古墳	三次市	殿平古墳は箱式石棺を埋葬施設とし、古墳時代中期頃に築造。長畑山古墳は横穴式石室を埋葬施設とし、須恵器・土師器・鉄鏃・鉄剣・玉類などが多数出土。	800円
3	長畑山北第1～6号古墳	三次市	古墳時代後期に築造された古墳群で、木棺墓から横穴式石室導入の様子の分かる貴重な調査。	800円
4	善正平1号遺跡 善正平2号遺跡	三次市	精錬・鍛錬鍛冶炉や鍛冶関連遺物が出土し、組織的に鉄生産を行った7世紀前半頃を中心とする集落。	1,800円
5	大柳遺跡	世羅町	高野山領大田荘に所在する中世後期の仏教関連施設。石積基壇や五輪塔・石仏・瓦など多数出土。	900円
6	原畑遺跡（第2次）	庄原市	古墳時代前・中期を中心とする集落の2次調査。1次調査関連遺構の他、中世の掘立柱建物跡を検出。	300円
7	御領遺跡（第4・5次）	福山市	弥生時代中期～古墳時代の集落跡で、縄文晩期、奈良・平安時代の遺構も検出。溝状遺構などから多量の土器や石器類が出土。	1,400円
8	葛城跡	大崎 上島町	15世紀中頃の単郭の海城で、井戸・掘立柱建物跡・土師質土器を多量に一括廃棄した土坑を検出。	500円
9	平成25年度ひろしまの遺跡を語る「城館研究最前線」記録集	—	近年調査した家ノ城跡、牛の皮城跡、城平山城跡を中心に、広島県の城館研究の現状について紹介。	500円

広島県大雨災害義援金ご協力のお礼

昨年8月の広島県大雨災害の義援金を遺跡見学会や考古学講座の参加者に呼びかけました。

平成26年12月までに合計27,979円の募金を

いただき、広島県共同募金会を通して被災者の皆様に届けました。

みなさまの御協力に心から感謝します。

ひろしま考古学講座Ⅲ

—考古学からみた「しまのわ」大研究—

講座では広島県大雨災害義援金の募金活動をしています。みなさまのご協力をお願いします。

あとがき

- ・この度、御領遺跡（福山市）出土の土器の中から「船が描かれた土器」が明らかになり、「ひろしまの遺跡を語る」で公開したところです。
- ・その他、今年度は天地遺跡（福山市）の石帯、亀居城関連遺跡（大竹市）の銘のある硯など、新たな発見もありました。来年度もホットな情報を提供したいと思います。（T.K）

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報
ひろしまの遺跡 第113号

発行日 平成27(2015)年3月23日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0035 広島市西区観音新町四丁目8番49号
TEL(082)295-5751
ホームページ <http://www.harc.or.jp>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 公益財団法人 広島県教育事業団
印刷 株式会社 エル・コ